

誰でも楽しめる観光へ

UTセミナー

利用者 目線で 施設整備、 商品提案

「大きなマーケットに」

「ユニバーサルツーリズム(以下UT)セミナーIN奄美」が20日、奄美市名瀬の県大島支庁であった。行政や観光関係者など約60人が参加し、専門家を招いた基調講演やパネルディスカッションで、今後のマーケット拡大が見込まれるUTに対応したバリアフリー観光地づくりについて学習。年齢や障がいの有無などにかかわらず、一観光客としてもてなす意識や誰もが使いやすい施設整備など、今後の対応について方向性を検討した。

セミナーにはNPO「観光推進機構」の中村理事長が招かれ、法人「日本バリアフリー村」元理事長が招かれ、

「劇的な集客増を達成するためのバリアフリー観光」と題して基調講演した。中村理事長は、生まれつき両腕と両脚がない障がいを抱える乙武洋匡さんのメディア露出を契機に、障がい者の外出機会が増加したことを上げ、「障がい者の旅行には同行者も多い。総合すれば大きなマーケットになり、対応の遅れは

損失につながる」と強調した。

高年齢層の旅行は現在最も市場が動いているが、一方で旅行先での行動を懸念して旅行をためらう人も多いという。「障がい者対応

の施設があれば、高齢者層や子育て世代も利用を決定することが多く、全体として顧客が増加する」と指摘した。

また高年齢者や障がい者は個人によって自由な度合いも異なることから、「同行者次第で『パーソナルバリアフリー基準』も変わるので、行き先も異なる」と提言。できる限り多くの人が利用できる施設づくりの重要性を訴えた。



ユニバーサルツーリズムの現状と課題について討論したパネルディスカッション

工夫された移動手段や宿泊施設を利用して、誰でも楽しめる旅行のこと。

立場の目線に立った宿泊施設や旅行商品造成を提案した。

午後からは鹿児島県観光連盟の奈良迫英光観光プロデューサーの講演やパネルディスカッションがあり、これからの奄美群島の観光について人材育成の視点で討論した。奈良迫は、交流人口拡大によるイターン者活用のほか、住民対象のおもてなし講座開設で外国人観光客への対応の必要性などを提言。「奄美

の価値を理解できる人」にターゲットを絞り、「奄美は一つ」を合言葉に、沖縄県と差別化した地域全体の魅力をつくって発信すべきだ」とアドバイスした。